



「協働のまちづくり」・「オール掛川」を 自己責任・自助共助を強調する 菅政権の掛川版にしないために

9月定例会
が10/1に終
了しました。

GOTOキャ
ンペーンの拡大
と規制緩和で

県外ナンバーの車も目立つよう
になり、観光施設には人がいま
すが、掛川でのコロナ感染が出
たこともあってか、飲食店など
駅周辺の人の流れはまばらで、
まちの経済の回復はコロナの感
染収束がないとなかなかむずか
しいなと感じます。

9月定例会の論議の中で市の
中小企業・市内業者支援に軸足
を移して、という意見への回答
の中で、市長は「市に魔法の杖は
ない。掛川は協働のまちづくり
を進めている。オール掛川、市
民・企業、みんなで乗り越えてほ
しい。」という回答をしました。
確かに財政状況も悪化してい
て税金収入も減少が危惧される。
市の力だけでは乗り切れない。



しかしこれでは菅総理が掲げ
た「自助、共助」パネルの掛川版
になってしまいます。

自分だけではなんともならな
い、地域で何とかできないから
困っているわけで、最初に自助
共助を言い出しては政治の役割
の放棄になります。

こんなふうに「協働のまちづ
くり」ということばで、共助の押
しつけをしないでほしい。
公のがんばり、暖かい政治に
支えられてこそ、市民・地域も
がんばれます。

菅首相に対し 学会議会員任命拒否を 直ちに撤回する事を求めます

もはや戦前でしょうか。どこかの独裁
国家と同じです。自分の意に沿わない
ものは排除する。安倍政権でもできな
かったことをしれっとやる。まさに菅政
権の本性見たりです。

検察庁長官人事に介入しようとした
安倍さんの路線をますます強めて、す
べての分野で多様な意見を封じ込め
ていこうとしています。こんな自由民主
党には“自由”や“民主”を名のってほ
しくないです。

「官邸記者クラブ」の記者たちとこそ
こそ朝食会などしていないで、国会を
開いて公的な場できちんと審議、会見
をして下さい。

大東温泉シートピアの 今後を考える

説明会での地元の声の聞きに
来てほしい。という要望をもら
い、地元で開かれた市の説明会
に出席しました。

「プールに通って健康を維持し
てきた。今休止で浜岡のぶるる
まで行かざるをえない」
「温泉やサウナは健康にどれだ
けいいか。福利施設を守る気は
ないのか。」

「南部地域の拠点である。ロケー
ションも最高だ。みんな譲渡先
が見つからず廃館になるのでは
と心配している。手を挙げにく
い条件がそろっている。市として
存続に責任を持つべきだ。」

「今月から民間譲渡活動開
始。令和2年度末で指定管理者
運営は打ち切り。3年度以降は
譲渡先との調整が完了するまで
営業休止」という市の方針説明
に対して出た意見です。
温泉愛を持った方々の発言が
続きました。

議会への説明の際には、私は
「順番が違うと思う。決める前
に説明をするべきだ。」と意見を
言いましたが、先に結論を決め
てから説明するやり方は連雀出
張所の廃止の時も同じでした。

市が「廃止前提ではなく今後
もシートピアを維持し続けるの
が目的だ。」とするのなら、この
内容を多くの皆さんに開示して
納得してもらえようようにしてほ
しいです。

公共施設マネジメントの先駆
となる事案です。これでは今後
のマネジメントのやり方も危惧
されます。



どんぐりの季節